



本気・根気・元気

令和8年4月10日発行【第1号】

発行者：佐賀市立昭栄中学校

校長 川副 紀子

学校教育目標：夢に向かって たくましく 挑戦する生徒の育成 —自律・協働—

生徒会スローガン：初志貫徹～想いをカタチに～

穏やかな春の陽気に誘われ、万物が瑞々しく活動し始める季節になりました。新入生 135 名を迎え、生徒総数 479 名で令和8年度の佐賀市立昭栄中学校の教育活動がスタートしました。お子様のご進級、ご入学、誠にありがとうございます。

昭栄中学校校長2年目となりました川副 紀子と申します。長い伝統と歴史のある昭栄中学校の卒業生の一人です。生徒信条「大いなる理想を胸に今日を最高に生きん」、そして昭栄魂である「奉仕の精神」「三気精神（本気・根気・元気）」は、これまでの先輩から脈々と受け継がれている精神です。479名の昭栄中の生徒には、これらを胸に失敗を恐れず挑戦し、たくましく成長してほしいと思っています。

本校の教育活動の一層の充実と発展のために、本校全職員とともに尽力する所存です。保護者の皆様には本校の教育活動について、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

令和8年度 学教教育目標について

夢に向かって たくましく 挑戦する生徒の育成 —自律・協働—

始業式で2・3年生に話したことの概要を紹介します。（一部抜粋）

3月の修了式で主体性について話をしました。主体性とは「自分に関係のあることとして受け止める力」だと、伝えました。例えば、教室で誰かが困っているとき、「先生が何とかするだろう」「誰かがやるだろう」と思えば、そこに自分はいません。でも、「自分に何かできるかもしれない」と思った瞬間、その場に自分が現れます。それが主体性だと思います。では、その主体性を支えているものは何か。それは「考えること」です。自分はどうしたいのか、自分に何ができるのか。こうした問いを自分に投げかけ続けること、考えを止めないこと、それが主体的に生きるということだと思います。忙しい毎日の中で、考えることを止めてしまう、周りに合わせて、何となく過ごしてしまうこともあるかもしれません。でも、その時にこそ、立ち止まって「自分はどうしたいのか」と問いかけてほしいと思います。

日本を代表する小説家であり、随筆家である遠藤周作さんは「くるしいけど、たのしい」、「くるたのしい」という生き方があると述べています。この言葉は、ただ「つらいことのアトに楽しいことがある」という言葉ではありません。楽なことばかり選べば確かに楽です。でも、心から「やってよかった」と思える経験は少し苦しさを乗り越えた先にあるということ伝える言葉です。

ここで、大切なことは、その苦しさが「自分で選んだものかどうか」です。やらされていることの苦しきは、ただつらいだけで終わってしまいます。しかし、「自分でこうしたい」と考えて選んだことの中で感じる苦しきは違います。自分で選んで生きている充実感や手応えがあります。しかし実際は、うまくいかなくて悩む、思うようにできなくて苦しいと思うこともあると思います。それでも、「自分はこうしたい」と思って続けているとき、小さな充実や手応えがあります。そして乗り越えたときに、「大変だけど、やってよかった」と思えます。遠藤周作さんが言う「くるたのしい」はただ辛いことを我慢するという意味ではなく、「自分はこうしたい」と考えて選んだ苦しさの中に充実や喜びが生まれるということです。

皆さんの挑戦を心から応援しています。挑戦と失敗を繰り返しながら、たくましく成長してほしいと思います。